

# 令和元年度 授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立明保中学校

## ●全国学力学習状況調査（小6・中3）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題	69.10%	「話す・聞く」に関わる、理由付けを行いながら自分の考えを持つ領域では一定の成果を上げている。話し合いの話題や方向性を捉えることや伝えたいことの根拠を明確にすることはできている。	条件に従って思考を進めることを苦手としている。示された条件を的確に把握させ、解答のスピードを上げさせるための指導・助言を構想する必要がある。また、手紙文などの基本形を復習させることは伝統文化の継承者として必要である。
	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ問題	74.50%		
	封筒の書き方を理解して書く問題	72.30%		
算数・数学	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ。	45.70%	平均正答率は領域、観点、問題形式全てにおいて全国の平均正答率を上回っている。これは習熟度別少人数授業により、生徒の学習状況や実態に応じた授業が可能となり、苦手意識の強い生徒や理解が早い生徒等、個に応じた指導が可能となったからだと考えられる。	問題を数学的に考察し、数学的な表現を用いて説明することに課題があった。数学的に説明し伝え合う活動や生徒が自分で考えを説明することができるようにするための授業の工夫をしていくことが課題である。
	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。	57.40%		
	aとbが正の整数になるとき、四則演算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。	13.3%		
英語	2つの図案を比較してどちらがよいか自分の意見を書く問題	5.30%	基本的な言語知識を問う問題や、リスニング問題に概ね正確に答えられており、成果が見られる。また、将来の夢など授業で扱った内容については、まとまりのある内容を「話す」ことができている。「読む」ことにおいては、日常的な話題を扱った簡単な文章の読み取りが比較的良好にできている。	絵に合うよう交通手段を話す問題が、全国平均を下回った。正確だけでなく、強勢の置き方についての指導が必要である。また、「書く」ことにおいて、問題の意図をとらえて正しい語彙及び文法で書いていく力を今後伸ばしていくことが必要である。
	絵を見て交通手段を口頭で答える問題	14.90%		
	来日する留学生のメッセージに対し、アドバイスを書く問題	19.10%		

## ●児童・生徒の学力向上を図るための調査（小5・中2）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	学習した漢字を、部首や意味の違いに注意して正しく書けるようにする問題	28.70%	各領域にわたって1ポイント程度都平均を上回っている。集団として持ち合わせている能力は停滞なく成長していると考えられる。	「課題が見られた問題」にあるように、大問の中で正答率が極端に違う面があり、反復的な復習の機会を設けるとともに、話し合いにより学習意欲を活性化させ、学習への動機付けをていねいに行っていく。
	語句と語句のつながりを確かめながら文章を読んだり書いたりする問題	31.30%		
	目的や意図に応じて集めた材料をもとに自分の考えをまとめる問題	59.10%		
社会	世界地図を用いて、主な国の地球上の位置関係をとらえる問題	21.70%	資料活用の技能や思考・判断・表現の観点の問題については、都平均と比べ、1.7%程度上回っている。普段から資料集などの資料を根拠に考えさせる取り組みの効果ができていると考えられる。	知識・理解に関する問題が都平均に比べ1.8%ほど低かった。単元ごとに小テストを行ったり、語句の意味を調べさせる取り組みを増やしていく。
	中国文明のおこりと発展について理解しているかを問う問題	26.10%		
	武士の政治へ進出過程について理解しているかを問う問題	17.40%		
算数・数学	文章題に対して方程式が与えられており、その立式の意味を問う問題	19.10%	数学的な技能の観点の問題では都平均に比べて8.6%程度上回っている。また、知識理解の観点でも都平均を3.4%程度上回っている。これは、定期考査で過去の範囲の計算問題を出題するなどしてスパイラル的に学習させる取り組みの効果ができていると考えられる。	数学的な見方や考え方に關する問題は都平均よりも0.1%の上昇と、他の観点に比べて上げ幅が極端に小さい。日頃の授業で、事象と説明文章の関係付けを促したり式の解釈を行わせるなどの工夫が必要である。
	2つの容器から水を抜いていく様子を表した2本のグラフから現象を考察する問題	15.70%		
	作図の手順から、その手順の根拠を把握し、式化に関する問題	20.90%		
理科	ばねを直列につないだときの伸びに関する問題	14.70%	基礎的な問題の多くについては定着している。授業で多く実験を取り入れているため「観察・実験の技能」についての問題は正答が多かった。	特に地学分野への苦手意識が感じられる。応用問題への知識の活用や解決する力への課題が見られるため、計算演習や発展問題などを取り入れ、定着・活用を促していく。
	地層の堆積の順番に関する問題	23.40%		
	溶解度に関する問題	33.00%		
英語 ※中学校のみ	英文を読み、場面や状況に応じた適切な表現を考えて、表現する問題	33.60%	全体としては、全観点、また総合的にも都の平均を上回っている。中でも表現の観点は、正答率としては低めだが、都の平均を一番上回っている。授業で表現活動を多く取り入れてきた成果だと考えられる。	表現の問題は、無回答はほとんどなく、意欲的に書いている生徒が多かった。小さなミスで点を落とす傾向が見られたため、文法の確認や知識を定着させる活動を増やす必要がある。
	質問に対して、2文以上のまとまりのある英文で答える問題	34.50%		
	過去形を用いて、自分の体験等を2文以上のまとまりのある英文で書く問題	37.10%		